

第4学年 社会科学習指導案

1 日時・場所 令和8年(2026年) 10月9日(金) 14:00~14:45 4年1組教室

2 単元名 「くらしの中に伝わる願い」

3 本授業の提案

本単元は、大阪府内や箕面市内の文化財や年中行事を見学したり地図などの資料で調べたりして、自分なりにまとめることを通して、地域の人々が受け継いできたものには様々な願いがこめられていることを学ぶことをねらいとしている。また、地域に残る建造物や祭りなどを、先人や地域の人々によって受け継がれてきた大切なものとして価値づけることで、地域社会に対する誇りを持ち、その発展を願う心を育てる。

本時であつかう仁徳天皇陵古墳は、世界最大の面積をほこる墓である。その大きさから建立に関わる時間や労力に目を向けるとともに、1500年もの長い年月を経た現在もその姿が維持されていることから、古墳を残してきた人々の思いや文化財を受け継いでいくことの大切さについて考えることができる教材である。

4 現状の児童の様子と手立て

気になる子の困りと今の姿

- 算数や国語などで理解に課題がある児童は多いが、社会では理解しようと話を聞いていることが多い。
- 元々持っている社会に関する知識に差がある。
- 導入では積極的に発言する児童が多いが、教科書の内容に入っていくと受け身になる。

授業での具体的方策

- 興味関心を持たせるために、導入でパワーポイントの写真や埴輪のレプリカを見せる。
- なぜ?を考える際に、一人で考えることが難しい児童には、個別に声をかけ、思考が止まらないようにする。
- 途中で話し合い活動を入れて、自分の意見に自信が持てるようにする。

期待する姿

- なぜだろう?と考えたくなる気持ちを最後まで継続できるようにする。
- 自分なりに考えることができる。
- グループ活動の際、自分の意見を言えたり、友だちの意見を聞いて自分の考えを深めたりすることができる。
- 古墳づくりの大変さや、維持していた歴史の重みにふれ、大阪に対する郷土愛を持つ。

5 単元指導計画(全9時間 本時 3/9時)

第1時	大阪府に来る観光客はどんなところに行っているのだろう
第2時	大阪府に古くから伝わるものは何があるだろう
第3時(本時)	大阪府の世界遺産 百舌鳥・古市古墳群を調べよう
第4時	古墳群・世界遺産について
第5時	大阪府に伝わる祭りや行事はどんなものだろう
第6時	箕面市で昔から続いている祭りや行事を調べてみよう
第7・8時	地域の秋祭りについて調べよう
第9時	箕面市に伝わる文化財について知ろう

6 本時の目標(3/9時)

古墳が現在まで形を変えずに残っていることを知り、そこに込められた人々の願いが今も受け継がれていることを理解する。

7. 本時の展開

学習活動	指導上の留意事項・手立て
1. 前時の復習	・ 仁徳天皇陵古墳が大阪府に残る遺跡であることと、1500年前から形を変えずに残っていることを確認させる。
め：どうして古墳が今も残っているの？	
2. 仁徳天皇陵の大きさと作られた時期を知る。	・ 仁徳天皇陵の大きさが実感できるように、比較するものを並べて見せる。
3. 古墳のイラストを見て、作られ方、置かれているもの等に着目して気づいたことをノートに書く。個人→全体	・ 児童用タブレットに古墳づくりの資料を配布し、自由に見られるようにする。 ・ 1500年前の暮らしを知り、作業している人の様子などから古墳づくりの苦労を想像させる。 ・ はにわの実物（レプリカ）を用意する。
4. なぜ現代まで残ってきたのか予想する。	①なんとなくここまで残ってきた ②残そうとして意図的に残している ③その他 →②国などによって管理されていて、意図的に残していることを確認させる。
5. 意図的に残しているのはなぜか考える。 個人→グループ→全体	「えらい人のお墓だから」 「お墓は大事だから」 「こんな大きいものは世界にないから」 「今まで大切に残されてきたから」 ・ どんな思いで古墳が大切にされてきたのかを確認する。
ま：昔の人々の思いや願いがこめられた大切なものとして、受け継がれているから。	
6. 衛星写真を見て、仁徳天皇陵古墳の周りにもいくつかの古墳があることを知る。	・ 仁徳天皇陵古墳の周りにも大小様々な古墳がいくつもあり、前方後円墳ではないものもあることを見つけ、次時につなげる。

授業の視点

☒他者と協働して主体的に取り組む学習活動

☒AI、タブレットを活用した個別最適な学び

☐思考・判断・表現力を育成する言語活動の充実